

昭和16年6月1日（日）

四時二十分、起床ベル鳴動を知らず居れり。伊勢さん出局、物数報告作成。余午前中髭剃り、新聞を閲す。午後より報告物作成。野口さん活動行き。森田さん九時帰局。雛、猫に喰われて、僅かに一匹を残せしのみと。夕食、喉に通らず悲しみし由。快晴にて過ぐ。

昭和16年6月2日（月）

快晴、流汗。朝大豆少々、垣根下に蒔く。味噌作る。扉、泥上り甚だ見苦し、雑巾にて拭く。伊勢さん、八時から四時。大分放送局開局。税務署への報告を済まして大体完了。電報原書の差立ても出来たり。午後より切手受領。市内公休の札を下げ、業務を休める向き多し。食事部屋にて茶を頂き、居睡りする。

昭和16年6月3日（火）

快晴。切手受領、午後零時半近く行く。切手類受領方に付き、逓信局より回答。中津局経由にて到着。余の意見通りとなる。職員調査票、調製す。夕方より涼し。

昭和16年6月4日（水）

快晴、夕方より曇り。調査票製作を了す。切手資金払込み、及び現品受取共、余行く。机の位置を移し、出入口近く頑張る。蛇の日傘の持ち主知れ、受取に来る。受領証を徴して交付す。羊羹等、前日来、約束注文し本日受取来らる。羊羹十二本となる。

昭和16年6月5日（木）

降雨。朝六時頃より、街路の掃除は之を了す。切手類受

取に中津局に行く。午後一時仕度して、三十円旅費貰ひ、羊羹を持ち出発。改札口よりブリッジを渡る前、余に言葉を掛ける者あり。大貞駅前局員の余の局に紹介、一度面接調書作成して同局長より取上げられ、即ち紹介して呉れ、同時に自局に引取り、転勤を肯ぜざりし結果に終わりしもの。其の局員が、小倉に親戚病氣見舞に赴く途中なりと云ふ。一緒に汽車に乗る。隣り座席に蒙彊郵電局勤務の者あり。余と同局員との対話を聞き、三等局には我利一点張りの者多しと共鳴し居れり。事務服を交付せぬ。現金手当を与ひず。年度末手当さへ、漸く今回、局員の要望にて交付されたる由。五時着。久子準備して待つ。雨降り居るも甚だしからず。洋傘を持来したるも使用せざりし。

昭和16年6月6日（金）

前日髭剃り、仕度も整理す。本朝五時出発。一二丁程行きしに、雨漸く激し。裏通りを通行し、久子をして電車通りまで送らしむ。少時電車を待つ。六時駅着。同三十二分発、普通列車に乗る。8時40分門司着。9時25分、下関発急行にて発足。天気晴れ。途中、海軍軍人連の中に割込み、駅弁30一度求めたる儘、何も食べず。水兵さんは岡山に数人降り、数名は呉兵団とて大船にて下車。夜は安眠し得ざりしも、幾分眠りし如し。切符は急行共、十二円。

昭和16年6月7日（土）

七時二十分品川下車。山手線に乗換え新宿下車。バス一区、天神前下車。道子恰度、甚十郎さんと戸塚署に貢氏を見舞に、赤坊連れにて行く約束とかにて、支度中。

二郎昨夜、出張先より飯宅し居れる由。。二郎訪ねて来る。余、貢氏と面会叶えば一緒に出掛くる積もりなりしも、夫れは叶はぬらしとのことに中止。間もなく甚さん夫婦来宅、一緒に出て行く。余は二郎の要求に応じ、事務所神楽坂近所に、静江氏も共に出掛く。連絡切符は拾銭にて市電と共通なり、之を利用。丸の内外堀を隔てて、逋信病院の宏壯の建物を右に望み、アパートの二郎事務所に至る。正面玄関靴脱ぎよりスリッパを借り、右に階段を下り、左に廊下を突っ切り、更に左に奥まりたる部屋、六畳三畳の二間。而して三畳にも六畳にも押入あり。茶箆筥、椅子机あり。外にも二脚の廻転椅子を有す。便所に行きたるに、水洗式なり。秋田県より赤坂某と云ふ鉾山の事務員らしき若者、丸山弁護士、伊藤某の三名。赤坂氏は百八十万坪の鉾山持ち主、元公使稲垣氏、鵜沼に病を養ふて居る。其の邸宅を、午後より訪問することとなり。伊藤氏の分は秋田を一週間前踏査後の情報に基づき、一旦帰途立寄ることを約し、午後一同を引取らしめ、余と二郎夫婦は神楽坂の飲食店に行き定食を注文し、猶、焼き蕎麦をも三人分取る。斯くして歸りにピーナツ二袋、其の他、是れが余に贈り物となれり。飯れば赤坂氏待ち居る。其の儘、二郎は同氏に伴われ鵜沼に行き、余等は三時飯宅。道子、既に帰り居る。澄子も間もなく学校より歸る。二郎は午後六時頃、鵜沼より飯る。余、暫く振りにて水浴。

昭和16年6月8日（日）

晴れ。安武さん及び組合幹部を歴訪、挨拶を述ふることとなり、甚さんと出掛く。甚さん飯りに立ち寄らる。夜、二郎来たり澄子の件相談す。大体今の学校は退ることに

同意す。是れまでは折角合格せし以上、何か神の啓示に由るものと確信し、退学は神意に背くが如き思いして承知し能わざりしも、最近二郎の業務、頻繁の出張に依り、唯一の頼みの綱が折断したる感もあり、明案もなかりし故、同意せしものとす。甚さん電話を山根さんに掛け、訪問日時を尋ぬ。明正午までに来たれとあり。而して甚さん明日、寝台券求めに東京駅に出向下さる由。二郎、正午近く新宿駅に行きたるも、寝台券の割当なく、直接東京駅にて求めよと云はると。

昭和16年6月9日（月）

朝、二郎は赤坂氏と上野駅に落合い、一緒に出発。新庄漁りの由。余、髭剃り近所の理髪屋に行く。序でに手紙投函。道子と午前中、山根先生かかり行く。新十号にて果物3, 45求め、電車は乗換え二度、其の都度、切符を求む。山根さん宅にて来客あり。待つこと四十分。臈（やが）て先生見へられ頗る樂觀的なり。少時咄して帰途に就く。先生の云はれる処を要約すれば、一二ヶ月を待たず出所すべしと。次いで、女高師桜蔭塾に澄子を保護者として訪ふ。松村先生に面接。数学は苦まぬとも可なりと云はれ、退校は再考すべしと云はる。一時退出、二時帰着。帰りは連絡切符求め10銭にて可。往路は19銭を費やせり。三時敏子さん来られ、四時頃まで赤坊をあやし帰らる。甚さん次いで来られ、寝台券、上一円、中1, 30求められたる由なるが、東京駅裏口にて蜿蜒（えんえん）丁に達する行列作り居れりと。甚さん十一時半より一時間待ち、手に入れらると。

昭和16年6月10日（火）

幾らか曇りにて冷ゆ。赤坊に湯を使って遣る。余、単独にて九時過ぎ出発。幡ヶ谷行き。坂の上にて成子さんに逢ふ。交通訓練日、交通系統調査。鍋屋横町に白バスを待つこと四十分。幡ヶ谷渋谷行きバスに乗り、十一時半峯氏を訪ふ。敏子さん外出、昌成さんと咄す。間もなく、敏子さん来られ一緒に咄さる。昌成さんの咄は、貢の出張先に対し調査の為、猶相当日数を要するものとの見込みを持しあり。零時40分辞去。成子さん手伝い居らる。荷物の梱包を初む。成子さん販り、四時、峯母堂、計一さんと赤坊見に来らる。計さん宿題の為、余裕なかりしも、此の日一段落し、三越にて待居られしも計さん来たらず。剣道にて遅くなりし由。旅行おしめ、先刻65にて二つ求め来たりしに、母堂も同じく二ヶ求め来らる。猶よだれ掛け二ヶ、古物なるも頂く。是れは何れも調法なり。母堂退出後、八時頃甚さん来られ、明日宮城さんを宅に訪ふ約を道子となさる。此の日、予備調査を明日まごつかぬ様にと尋ね廻られたる由。恐らく先方に対する土産物などは、甚さん準備し下さると。

昭和16年6月11日（水）

降雨。十時甚さん見ゆ。道子疲労、行きたくない様子なるも、約なればと出掛く。余は此の間に髯剃る。午後道子帰る。澄子昨学校行きたるも、松村先生不在にて販り、此の日は不行。二郎より葉書、途中より遣す。朝及び夕共、余の餅米にて頂く。静江さんより余の分のみ持来たり、澄子等は雨を冒して向かいの家にて食す。八時寐らんとせし処、安武夫妻訪ねて来らる。道子遂に起き上がり能わず、余挨拶。九時頃辞去。荷物は近所の青物屋

に依頼、運搬し貰う。三個にて1, 50取る。闇をやる人物と云ふ。家主来たり道子と大分揉み合う。余出て挨拶したるも、値上げの目的らしく妥協ならず。敏子さん明日来宅を求む。

昭和16年6月12日（木）

雨甚だし。八時半甚さん見ゆ。一緒に発足、中野駅に至る。昨七時頃、余赤坊を連れ中野駅に至り近路を辿る。帰途雨降り初む。此の近路を知り置きしことは、頗る便利なりし。次いで急行券と乗車券を求むる為、二度中野駅に到る。二度目は雨、可なり劇しかりし。九時、中野駅着。切符10, 65、急行135三枚。道子より二拾円受取り、他は全部余の出費。さて中野より、急行電車四十分にて東京駅着。寝台11号3番、上中下三名（下段客、神楽坂の人）。4番は誰も居らず、4名にて6名分を占居す。静江さんよりバナナ、成子さんより海苔と5円。敏子さん5円頂き、訣別の挨拶す。列車は十時発。各室共、超満員。然るに余等に限り、快適な旅行をなし得、赤坊は揺籃の如き動揺に夜も良く眠り、澄子も神戸にて九時より4番中段に決定、姉と差向かいに休むことを得、恵まれたる旅行に対し感鳴し居れり。

昭和16年6月13日（金）

昨、雨は歇み、曇天の儘。此の日は4番上段、船渠会社員と云ふ人と博多に来る。久子迎ひに不来。葉書見て居らず。寝て居れり。道子等遅れて来る。余、途中よりパン50求めたり。道泥濘。バス不来、徒歩。時に十時。便所に行き水浴す。数日分の塵垢（ちりあか）を落とす。雨降らざるも道路乾かず。湯を沸かし赤坊を入れやる。

昭和16年6月14日（土）

曇り。階下は蚊帖を吊らず。余のみ吊る。赤坊は二階に寝かす。夕方風呂に、赤坊を連れ澄子久子行く。湯の中の女性、赤坊を湯に入れて下さると云ふ。余迎えに行き連れ戻る。夜は十時後、乳を与ひず。

昭和16年6月15日（日）

曇り。午前中、秀夫来る。二階に上がり赤坊を見て、正午過ぎ飯る。久子土産の帯を締め、用達に行く。夕方、久子赤坊を連れ外出。次いで澄子同様外出。赤坊に接する誰彼、皆利口相なりと賞賛す。余二階に寝せ、夜中乳を与ひず。其の主義を堅守す。剃刀、道子分まで三挺研ぎ、理髪し貰う。

昭和16年6月16日（月）

八時半出発。朝、申又洗濯す。朝の間快晴、午後次第に曇る。零時半到着。此の日来るとは考えざりしものの如し。一時間程休養して出局す。茶菓を饗す。十時寝床。野口氏巖方に行き、森田さん風呂行き。菅家原ミチコさん、道子が来ることを知り居れる由。道子よりの手紙に因れるらし。

昭和16年6月17日（火）

朝晴れ。予報は、後降雨を報ず。然るに、終日晴天とは行かぬまでも、曇り程度に過ぐ。五時過ぎ雷鳴。降雨を見るかと思ひしも、少し許り降りかけて歇みたり。午前十一時、今泉颯二（えいじ）氏臨局。令閨も居らる。乃ち局に入れ、昼飯を饗す。十一時五十分発の耶鉄にて羅

漢寺に行かるる筈を、一分違いにて戻り来られ、午後零時四十分発にて行かる。夫れ迄、色々咄す。同時刻駅まで送り、荷物は預かり置く。臈（やが）て四時半頃販られ、再び我等送りて行く。夫妻を見送り販局。夕食を済まして、余の味噌を造る。胡麻売物になしと云ふ。

昭和16年6月18日（水）

晴天、次第に曇り。午後より降雨、雷鳴あり。梅雨らしき気候となる。夕刻雨歇む。敏子さんより手紙。家の問題は全く、道子已人（ひとのみ）に属し、感情に駆られたるもの。中尾勝正保険主事となり、曩に余に挨拶越す。長女17高女四、長男15高二、二女11尋四、二男8尋一とあり。今日、局報見て返事出し置く。九時退局。森田さん風呂行き。ラジオ聴きつつ、蚊帳の中にて安臥す。十時眠る。夜雨。

昭和16年6月19日（木）

朝、雨歇む。道路掃除。予て手直しを期図し居れる数珠を、朝の間に修理す。切手の金、払込みにミワさん行かる。余、一時受取に行く。雨甚だし。庶務にて電話にかかれと云ふ。ミワさんより資金八百円、伊勢氏請求書持行きし故、現金受取呉る様とのこと。待つこと久し。斯くて、伊勢さんより請求書受取り、現金を手にして販る。雨、猶甚だし。夕方歇む。八時より本町行き。幌蚊帳、30求め来る。雨歇む。

昭和16年6月20日（金）

陽の射すこともありしも、大体曇りにて終始す。道子より葉書、旅費なしとあり。ミワさんと協議して、30円小為



替にて発送。速達便に托す。ミワさん国債売りに東奔西走さる。伊勢さん海蟹を捕捉。森田さん電信掛かりへ贈る。伊勢さん電信にかかり、相手の攻撃に辟易せず多弁応酬す。余、見かねて注意す。今朝より便所へ蚊遣り香、持込む。

昭和16年6月21日（土）

曇り。午後より、中津局へ切手類受取に行く。一時頃、逓信局技手牧瀬県（あがた）氏、衡器検査に臨局。一々分解し、ボロ切れ、自転車油、捻子廻し等、付属品一式取り揃え置く様、注意ありし。午後六時までかかる。雨降り出づ。和傘遣る。試験重錘の鞆は、当局に差措きあり。明日、大貞より日田を経て飯熊の由。此の日、中津局切手受取に往きたる際、庶務の司城氏より元大貞局員、当局に推薦あり。履歴書送付方注意あり。道子来ると、屢々ミワさん駅まで迎えに行く。午後七時頃来る。久子も見ゆ。午後三時五十分準急にて三時間を費やし、一番短時間にて到着せしもの。夕食後、巖方に行き、夜に入り、巖赤坊を負ふて来る。余守りつつ、寝に就く。夜半より殆ど睡らず。其の代わり赤坊は泣かざりし。

昭和16年6月22日（日）

夏至、日中一番永き日。道子等の為、萩の餅を作る。餡作成に大多忙の際、中津局司城氏、元大貞局員を連れて来る。之を事務室に案内、質問す。司城氏は大貞局に在勤せし由。四時夕食を済まし、二階にも巖方にも分配したり。赤坊は余、守して休ます。睡眠不足の嫌いあり。前夜腹冷やしたるにや、此の日下痢す。朝十時頃、道子等来たり。夕刻赤坊を湯に連れ行き、久子世話す。

頗る扱い方巧者なりとて人、皆驚くと。

昭和16年6月23日（月）

曇り、昨夕より牛乳配達を受く。朝一回と都合二度。不足分パトロゲンを遣る。猶、昨朝七時二十分、牧瀬氏大貞行き。重荷を携ひて耶鉄に行きたり。女学校生徒、大貞に行くとして多数乗込む。ミワさん国債消化の為、活動さる。中津より千五百円追加方、来照あり。鶴居局長、国債の為、臨局。

昭和16年6月24日（火）

朝来珍しき快晴。道子等の為、残りし餡を砂糖追加、煮沸して糯米全部を炊いて待つ。十一時近く巖方より来る。蚊帳なき為、夜巖方に行き、泊まり、朝食を済ましてこちらに来ることとし居れり。久子をして調製せしむ（萩の餅）。巖より土産として乾しウドン（武夫にも贈る）貰ひ来る。自分も既に市内より求めたることとて、二重となり、数把措いて行けり。午後三時三分発にて出発。午後、中津局より切手受取に行く。

昭和16年6月25日（水）

朝晴れ、漸次曇り。夕方雷鳴。豪雨、六時頃より小降りとなる。昨ミワさん黄粉（きなこ）求め来られ、残りの餅（一杯位）を、黄粉にて頂く。今朝残りの黄粉にて、朝飯を頂戴す。七時過ぎより再び降り出す。国債売出のことにて竹折主事と協調す。赤坊の為、夜半より一睡せず。

昭和16年6月26日（木）

夜来、引き続き降雨。各地出水。。襦袢火気にて乾かす。

道子手紙。澄子皮膚病、久子より感染。坊やにも、其の兆しあるに非ずやと心配し来る。切手受取に行く。恰度雨歇みたる折、和傘は御共なりし。間もなく再び降り、夜に至る。坊や湯浴みさす。六月期手当通牒あり。計160円。現金手当8,60円。坊や午前三時まで眠る。三時より遂に余も眠る能わず。夫れにしても、前夜よりは多く安眠し得たり。

昭和16年6月27日（金）

夜来降雨、小歇みなく続く。河川氾濫の警報あり。山国川堤防決壊の恐れあり。警鐘を撞き防消を召集す。六時、坊やに湯浴みさす。昨夜十二時までミワさん守りし、其の後、余守りす。三時まで休まず。掛け物多く暑かりしものの如く、上掛けを取去りて眠る。朝、ゴマ味噌造る。魔法瓶290求む。二つとなり、一個は湯を入れ置くこととす。尚、瓶は数軒東の鉄器物店より求む。虎印にあらず。

昭和16年6月28日（土）

降雨、歇まず。昨大貞に電話せしに、局長の曰く、本人は胸の病気にて退職し、逡信局より二三百円の治療費を貰ひたるものの由。公文にて回答を促し、中津局司城氏に其の旨通告せし処、明日姉の工場より電話ある筈なりとあり。此日零時過ぎ、司城氏より電話、本人臨局の話。余、切手受取に行くべきに付き、即時出掛くる旨告げ、襦袢を洗ひ愈々出発せんとしたるに、和傘ミワさん持行きたる為、少時待居りたるも、帰局を予期し能わざる為、女持ち洋傘を携（たずさ）ひ行く。公衆溜まりに待戻る。井上氏と司城氏も来たり、色々咄す。三十日来たり身体検査を受くる様、話す。ミワさん予て、乳の出る人を注

意し居りしに、中殿に適當の人居る由にて、風呂屋にて昨調べ来たり。此日其の家を訪ね、十時より伊勢さんに坊やを抱かせ、午後二時よりは野口さん、午後七時半よりは、余連れ行く。夕食後、湯浴みせしむ。夜十一時まで眠らず、次いで三時まで睡る。前後不覚に、余眠り込む。大工さんの家のも、細川病院で手術して赤子を引き出せし由。

昭和16年6月29日（日）

豪雨、九時頃まで続く。本町筋、溝渠氾濫。若連中出勤、治水に力めつつあり。田隈の横通りも水に漬かりて、歩行不可能。雨の中を十時、三時、八時と三回乳貰ひす。五時半風呂行き。赤坊入浴さして貰ふ。此の間、余待居る。雷鳴、降り出し相。気が気でなく、和傘三人で一ヶにては、どうすることも出来ぬから。幸に雨降らず、帰宅されたり。

昭和16年6月30日（月）

珍しく快晴。中国筋より九州各地、水害の報あり。金光教会大祭。司城氏推薦の井上氏、遂に不来。相談所に診断書作成、待居りたるもの。其の旨、同君に電話す。襦袢乾燥。十時、坊や連れミワさん行く。午後二時三十分、先方より訪ね来らる。菓子出し土産に遣る。為替拾円不足、考慮の末、相手より受け取らず証書交付の相対、判明。伊勢さんと出掛け同氏宅に泊まる。坊や隣組会に午後七時半頃行き、直に神様に御詣りに行き、次いで乳貰ひに行く。九時来たり、十時寝床。